

環境アクションプログラム 2006レビュー

NEXCO西日本では、平成18年度より「環境アクションプログラム」を策定し、マネジメントサイクル「Plan(計画) Do(実行) Check(点検及び是正) Action(見直し)」の運用を始め、環境に配慮した事業活動を推進しています。

2006年度(平成18年度)の目標と活動結果

| 活動内容 | 2006年度 目標 | 2006年度 実績 | 自己評価 | 2007年度 目標 |
|-----------------------------|-----------|-----------|------|-----------|
| 地球温暖化の防止に向けた取り組み | | | | |
| 円滑な交通の確保 | | | | |
| 新規路線の開通 | 5km | 5km | ○ | 7km |
| ETCの普及促進 | | | | |
| ETCの利用率 | 63% | 62% | △ | 70% |
| ETCレーンの複数化 | 14レーン | 14レーン | ○ | 4レーン |
| お知らせアンテナの設置 | 17レーン | 33レーン | ○ | 30レーン |
| 電気の節約・省エネルギー | | | | |
| オフィス活動における電気使用量の削減 | 1% | 4.5% | ○ | 2% |
| 自動車排出ガスの抑制・低公害車導入の推進 | | | | |
| 低公害車の導入(連絡車両) | 30台 | 30台 | ○ | 299台 |
| 循環型社会の形成に向けた取り組み | | | | |
| 環境に配慮した製品・資材等の調達(グリーン調達)の推進 | | | | |
| 事務用品におけるグリーン調達の推進 | 100% | 100% | ○ | 100% |
| 発生材の再資源化・再生利用 | | | | |
| 建設発生土のリサイクル | 100% | 99% | △ | 100% |
| アスファルトコンクリート塊のリサイクル | 98%以上 | 100% | ○ | 98%以上 |
| コンクリート塊のリサイクル | 96%以上 | 97% | ○ | 96%以上 |
| 建設発生木材のリサイクル | 65% | 99% | ○ | 65% |
| 建設汚泥のリサイクル | 75% | 58% | × | 75% |
| より良い沿道環境の創造のための取り組み | | | | |
| 沿道における良好な音環境の創造 | | | | |
| 遮音壁の設置 | 1.8km | 1.2km | × | 8km |
| 高機能舗装の敷設 | 344車線・km | 359車線・km | ○ | 400車線・km |
| 植樹の推進 | | | | |
| 盛土のり面等の樹林化の推進 | 42ha | 42ha | ○ | 22ha |
| 自然との共生 | | | | |
| 動物侵入防止柵の設置・改良 | 9km | 23km | ○ | 36km |

関連ページ

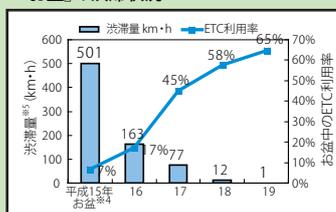
- 14
- 17
- 17
- 17
- 22
- 24
- 25
- 31
- 31
- 31
- 31
- 31
- 35
- 36
- 38
- 39

自己評価の区分: ○目標達成 △目標の80%以上達成 ×目標の80%未満

地球温暖化防止の防止に向けた取り組み 11-24

NEXCO西日本管内の主な本線料金所等10箇所※のお盆の期間の渋滞が、ETCの普及に伴い、殆ど解消されました。

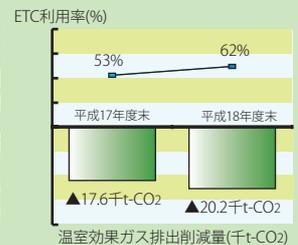
主な本線料金所等10箇所※における『お盆』の渋滞状況



※主な本線料金所等 (TB:本線料金所、IC:インターチェンジ)
 名神高速道路・西宮TB(下)、西名阪自動車道・松原TB(下)、天理TB(上・下)、近畿自動車道・八尾TB(上)、阪和自動車道・堺TB(上)、第二神明道路・須磨TB(上・下)、九州自動車道・福岡IC、太宰府IC

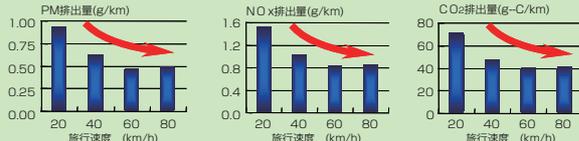
NEXCO西日本管内におけるETC利用率が62%となり、ETC普及に伴う料金所付近の温室効果ガス排出が、2.0万t-CO₂削減(推計)となりました。

ETCの普及に伴う温室効果ガス排出の削減量(料金所付近)



山陰自動車道(宍道JCT~斐川IC)4.6kmが開通しました。

高速道路は、地域の利便性や防災機能を高める他、物流の効率化や一般道の混雑緩和・走行速度の向上等による自動車排出ガスの排出抑制により、大気汚染防止や温室効果ガス排出の削減等の、環境保全効果があります。



二輪車ETCの本格導入、渋滞情報提供の拡充など、より一層の高速道路の利便性向上を図りました。



二輪車ETCの本格導入(平成18年11月1日より開始)



渋滞予測サイトの情報提供(平成18年12月より開始)

オフィスにおける電気使用量が、2005年度比4.5%削減(目標1%以上)されました。



こまめな消灯



社用車(連絡車両)で更新した車両は、全てを低燃費・低排出ガス車としました。このこととエコドライブの実践により、燃費を2005年度比で2.5%向上させました。



循環型社会の形成に向けた取り組み

25-34

グリーン調達(事務用品は調達率100%(目標100%))

NEXCO西日本では、環境負荷の低減に資する原材料、製品及び役務等の調達(グリーン調達)を推進しています。

平成18年度は、事務用品のグリーン調達が100%(目標100%)でした。公共工事については、可能な限りグリーン調達の推進に努めました。

建設発生土 99%を再資源化(目標100%)

建設発生土のうち、約4割を、再資源として自社の工事でも有効利用とすることにより、土砂の運搬等に伴う環境負荷を低減しました。



建設廃棄物 99%を再資源化(目標65~98%以上)

建設廃棄物(アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥、建設混合廃棄物)の全体で、99%を再資源化しました。



このうち建設汚泥について平成18年度は、相当量が再資源化でなく最終処分(埋立)が適切と判断されたため、行政指導に基づき適切に最終処分(埋立)とし、目標に対して80%未満の実績となりました。

植物系廃棄物 92%を再資源化

樹木の剪定や草刈等により生じる植物系廃棄物は、自社で保有するプラントなどにおいて堆肥やチップにするなど、92%を再資源化しています。



刈草の発酵作業(切り返し)



相生プラント

より良い沿道環境の創造のための取り組み

35-40

遮音壁の設置 1.2km(目標1.8km)

計画的・着実に、遮音壁の設置を進めています。平成18年度は、工事着手していたものの、設置完了に至らなかった遮音壁があったため、目標に対して80%未満の実績となりました。



遮音壁の設置延長(累計-平成18年度未現在)は、1,047kmとなっています。

高機能舗装の敷設 359車線・km(目標344車線・km)

計画的・着実に、高機能舗装の敷設を進めています。



左:高機能舗装 右:従来の舗装(密粒舗装)

高機能舗装の敷設延長(累計-平成18年度未現在)は、6,464車線・kmとなっています。

自然環境に配慮した道路構造

自然が豊かな地域では、その地域に生息する動植物に可能な限り配慮した道路構造にしています。



多自然型護岸(新名神高速道路)



自生樹の種子から育てた苗木

盛土のり面の樹林化 42ha(目標42ha)

盛土のり面や園地などには、可能な限り樹木を植えています。



新名神高速道路(滋賀県甲賀市)



大分自動車道(大分県別府市)

樹林化面積(累計-平成18年度未現在)は、2,952haとなっています。

動物侵入防止柵の設置・改良 23km(目標9km)

動物の轢死を防止するため、動物の高速道路への侵入を防止する柵の設置・改良を推進しています。

